

TSK

仙台ダルクニュースレター
Drug Addiction Rehabilitation Center
2023年 3月号



編集く仙台市指定グループホーム・仙台ダルクチェルキオ作業所く仙台ダルク
〒980-0011 仙台市青葉区上杉 2-1-26 URL <http://sendai-darc.org/>
TEL 022-261-5341 FAX 022-261-5340 Mail s-darc@jasmine.ocn.ne.jp

～「感謝」のフォーラム～ ダン

2022年7月、新型コロナウイルスの第7波に悩まされる中に仙台ダルクは開設25周年を迎えることができました。これを記念したフォーラムの計画は早くからありましたが、社会状況が見通せなかったため2023年1月29日に開設25+1周年記念フォーラムとしてようやく開催することができました。仙台ダルクフォーラムとしては、新型コロナウイルスの流行で中止となった2020年以来3年ぶりです。

久しぶりのフォーラムは、全国からたくさんの仲間たちや、日頃支援していただいている関係者の方々、地域のみなさんにお出でいただき、予想を超える350人以上の来場者を得て、盛況のうちに終わることができました。ご来場いただいたみなさまには、紙面を借りて御礼申し上げます。

会場を歩くと内外に人があふれ、会場内で真剣に話を聞く人、久しぶりの再会に話が盛り上がる人もいて、出店いただいた団体の方々の売り声も賑やかにちょっとしたお祭り気分でした。多くの人と同じ空間、同じ時間を共有でき、オンラインにはない雰囲気や空気感、そして熱気がありました。

このフォーラムの開催は、多くの仲間の協力に支えられていました。私は、総合プロデューサーなる役割でしたが、フォーラム直前に北海道へ研修に行ってしまう、その留守を預かってくれたヒトシさんやタンクさんがフォーラムの準備を少しずつ進めてくれました。記念グッズの製作、プロジェクターの準備などは2人の尽力あってのものです。当日も司会から機材操作、誘導など全員にそれぞれの役割があり、青森ダルクの仲間たちを含めたみんなの協力によって無事、終わることができました。

私自身ですが、実のところ当日の細かいことはあまりよく覚えていません。とにかく、人に呼び止められては走り回っていました。進行を変更する、照明が暗すぎる、献金袋がない、弁当が足りないなどなど…走り回る途中に、久しぶりの仲間と出くわして握手とハグをしてまた飛んでいく。そんな感じでした。

それでも、仲間たちの正直な体験談や、藤岡ダルクの迫力ある太鼓演舞など、どのプログラムも印象深いものでした。今年のフォーラムは、例年と異なり半日だけの日程でしたが、とても充実したものだっただと感じます。

今回のフォーラムのメインテーマは、「感謝」でした。仙台ダルクが、25年にわたって活動を継続できたのも、ご来場いただいたみなさまをはじめとする多くの方々のご理解とご協力によるものです。このフォーラムが開催できること、開催のために力を尽くしてくれた仲間たちの存在も「感謝」です。いろいろな「感謝」が集まって、このフォーラムはあったように感じます。

賑やかで、楽しいひとときはあっという間に終わってしまいましたが、時はめぐり、また同じ季節が来る…とオープニングの一節にあったように、また、次回の仙台ダルクフォーラムでみなさまにお会いしたいと思います。

Thank you, everybody!!

仙台ダルク ダン

Drug Addiction Rehabilitation Center

DANRC

～仙台ダルクフォーラムを終えて～ ヒトシ

この度は、仙台ダルクフォーラムにご参加いただき、誠に有難うございました。また、ご協力いただいた関係機関の方々に深く御礼申し上げます。私自身ダルクに助けられた人間ですが、仙台ダルク 25 年の歴史の一端にこのような形で携わることができ、とても光栄に感じています。

今回のフォーラムにおいて、ポスターの原案やグッズの製作、奥平先生の講演の段取り、藤岡ダルク琉球太鼓の仲間との日程調整、当日の司会などを主にやらせていただきました。私にとって、ひとつ一つがとても貴重な経験でした。

仙台ダルクの仕事において、飯室代表のアイデアを一つ一つ実現させることが大切だと考えています。その一つが今回のフォーラムであり、私に課されたのはグッズ製作でした。ロゴの作成から取り掛かりましたが、途中何度も頓挫して、自分のアイデアでは、いいのか悪いのかも判断がつかない状態でした。そのような折、ロゴ中の DARC の文字の色選びを、仲間と2人で納得のいくカラーリングにしました。このため、他の人から見るとわかりませんが、私にとっては特別なデザインになりました。これをベースにマグカップ、T シャツの製作を行いました。T シャツでも、仲間がデザインしたフラッグと組み合わせることで、少しいい感じに仕上がりました。今、この T シャツを着ることが楽しみになっています。缶バッチは、代表の 25 年のバースデイの色紙に使ったデザインをそのまま使いました。これも、トートバックやバックパックに付けて、お洒落な感じで満足しています。限られてはいますがイベントグッズが揃うと、準備段階から、現在にいたるまで、いろいろな段階で楽しめました。こういうワクワクするような感覚がダルクにはある、ということを知るきっかけになりました。

フォーラムの司会を仰せつかりましたが、緊張はあまりしませんでした。というのも、私一人ではなく、女性施設“しおり”の施設長マミさんと一緒だったからです。おまかせしたという感じでした。実際、司会進行台本の草稿をはじめ、私の不手際で献金袋が会場に回らず、そのためにできた間を埋めてくださったり、フォーラムのTシャツを着てアピールして下さったりと、その都度、頭が下がる思いでした。また、グッズ販売を担当していただいた“しおり”の方々の熱量に胸を打たれました。準備段階から関わるのは初めてなので、どちらかというところを恐る恐る近づき、尻を叩かれないと進めない私でした。また仙台ダルクのメンバーも私と大差ないのに対して、このように多くの周りの方々が積極的に関わって下さったことがとても嬉しく、有難く感じられました。

休憩時間や、講演の合間を縫ってロビーや喫煙所に行きました。そこで、これまでお世話になった方や、多くのダルクの仲間たちと再会できたことがとても嬉しかったです。遠方からきた仲間からは、翌日もいるのでスノーボードに行きませんか、と誘われました。面食らいましたが、最近ではなかなか誘われることがないので、この提案を受けました。しかしながら、その仲間はスノボの道具一切を用意してきておらず、全部私が用意しなくてはなりません。深夜にブツブツいいながら、自分と仲間の道具を準備しました。その上、当日昼過ぎには飛行機が飛び立つという、、、。フォーラムを終えた夜は、自分の失敗や至らなかった点の原因を色々と考えてしまい、人のせいにして、そうする自分を責めたりと、思考がぐるぐる回りなかなか眠れませんでした。“薬中3割”という言葉思い出し、大きな失敗も無かったのだからいいだろうと考え直し、何とか寝ることができました。案の定寝不足でしたが、晴天のもと真っ白なゲレンデと一緒にリフトに乗って分かち合い、食堂で食べた豚汁が妙においしく感じられ、空港まで充分、フォローシップが取れました。楽しい思い出になり、こういうことはまたありだよな、と思いました。

仙台ダルク ヒトシ

経験者はかく語りき by シュウイチ

ダルクに来るまでの自分

薬物依存症のシュウイチです。五十八歳になります。令和四年七月二十三日から仙台ダルクにお世話になってます。現在で七月と二十日が過ぎます。出身はM県S市。

私の生い立ちを話します。私の家庭環境は不遇でした。物心が付いた時には両親は離婚していて実父と継母と異母妹との四人暮らしでした。私は継母も妹も実の母、妹と思って生活していました。でも子供心にも継母の私と妹との間の差別を強く感じてました。

そうやって生活しているうちに小学四年（十歳）の時、実母が家に来て「家に来ないか」と云ってきて、私は差別が嫌だったので「変なおばさんが来た」と思いながらも「行きたい」と二つ返事で答えました。そこから実母と私と実母の愛人との三人生活が始まりました。そしたらその愛人からの虐待を受けるようになりました。毎日が地獄でした。そして、そういう生活も中学一年頃にはなくなり、中学三年の頃にはその愛人も母と別れていなくなり母との二人の母子家庭となりました。困みに母は温泉芸者をしており何時も夜は一人ぼっちでした。

私は不良傾向が高く、中学一年の時には先輩と一緒に夜に車を盗み乗り回してました。そして、警察に初めて補導され、その結果は年がたってなく触法少年と云う事で警察で母親を呼ばれ注意にとどまりました。そして、中学二年から喫煙と酒も少し飲むようになりました。また、その頃からシンナー（トルエン）も吸引するようになりました。私の部屋はたまり場になってました。そして、中学三年の時に先輩から改造車を買って無免許で乗り回してました。そして、中学卒業後十六歳になり自動二輪の免許を取得して四〇〇CCのバイクも母から買って貰ってそれで暴走族に入り夜な夜な集会に出てS市内近辺を走り回ってました。

そしてある時、車の部品（キャブレター etc）を盗まれ廃車にしてもう一台新しい車を買おうと思ったのですが、一台目は母がお金を出してくれましたが二台目はそうはいかず調達資金に困ってガソリンスタンドに侵入してお金を盗もうと思ったら直ぐ警備会社の車が来て捕まり警察に通報され窃盗未遂で逮捕されました。

経験者はかく語りき by シュウイチ

そして、家庭裁判所での審判の結果は少年院送致となりました。釈放しても母が夜家に居ないのが理由でした。因みに私は義務教育しか受けてません。高校は受験しましたが落ちました。それで母が手職をつけると云う事で理美容学校に入りました。でも中退です。

それから少年院を出院してからは、母が職場を捜してくれて、そこに就職しました。そこでは真面目にやってみました。でもシンナーとタマに暴走族もやっていた十七歳になってから暴走族（共同危険行為、道路運搬法違反）で逮捕されました。その時は仕事を真面目にやって社長に気に入られていたので、社長が身元引受人になってくれました。そのお蔭で保護観察で済みました。そこから二十一歳迄、約五年間勤めたのですが辞めました。

そこからが私の転落人生のスターで紙面が無いので割愛しますが、シンナー（トルエン）毒物及び劇物取締法違反で二度執行猶予を貰い四回服役、覚醒剤取締法違反で八回服役、窃盗で一回服役で合計十三回の服役で約三十年刑務所に入りました。自分でもよくこんなに刑務所に入っていたものだと思います。

また私は職場も十代の時から転々としていて塗装工、工員、林檎の行商、仮杵大工、大工、道路舗装、パチンコ屋の店員（二ヶ所）、給食センター、トラック運転手（短中長距離三ヶ所）、運転代行、住宅の飛び込みの営業マン、ポスティング etc と色々やりましたが、どれも長続きせず現在に至ってます。

それから躰の方は薬物をやっても刑務所で躰が元に戻るせいか、現在内臓疾患は殆ど無く、しいて云えば受刑生活でずう～と座っていたので背骨が曲がってしまい、また腰の下の骨の間のスポンジが擦り減り痛みます。一生の病気です。また依存症も一生の病気なので、もう五十八歳なので刑務所は卒業してダルクを最後の砦と希んでいます。

以上

今後の予定 2023年6月まで

- 4月11日12日(火水)・・・フィンランドヘルシンキ依存症施設スタッフ来所見学
- 4月12日(水)・・・宮城刑務所薬物乱用防止プログラム
- 4月16日17日(日月)・・・秋保温泉フェローシップ
- 4月17日(月)・・・仙台市障害支援課ヒアリング
- 4月19日(水)・・・宮城刑務所薬物乱用防止プログラム
- 4月26日(水)・・・宮城刑務所薬物乱用防止プログラム
- 4月28日(金)・・・仙台保護観察所ネットワーク会議・仙台保護観察所内ミーティング
- 5月3日4日5日(水木金祝)・・・青森ダルク合同フェローシップ
- 5月10日(水)・・・宮城刑務所薬物乱用防止プログラム
- 5月13日(土)・・・沖縄ダルク家族会
- 5月17日(水)・・・宮城刑務所薬物乱用防止プログラム
- 5月24日(水)・・・宮城刑務所薬物乱用防止プログラム
- 5月27日(土)・・・東北会病院職員研修会講師派遣
- 5月31日(水)・・・仙台保護観察所ネットワーク会議・仙台保護観察所内ミーティング
- 5月31日(水)・・・宮城刑務所薬物乱用防止プログラム
- 6月6日(火)・・・宮城野高等学校 講演
- 6月17日18日(土日)・・・茨城ダルク家族会 講演

“2023年クリスマス会御礼”

仙台ダルククリスマス会は、

「NHK 歳末たすけあい事業費」
「宮城県共同募金会」

より助成を受けて行いました。
厚く御礼申し上げます。

特定非営利活動法人
仙台ダルクグループ

せんだい家族会のご案内

同じ問題を抱える家族の方へ、あなた自身の回復と成長のために
家族会ミーティングに参加してみませんか。

2023年4月2日【日】
10:00～15:00
仙台市民活動サポートセンター
仙台市青葉区一番町4-1-3
会費：1000円
群馬ダルク施設長
福島 ショーン 氏
障害福祉事業所トウデイ施設長
平山 昌一 氏

2023年4月18日【火】
19:00～20:30
仙台ダルク
仙台市青葉区上杉2-1-26
会費：寄付による

2023年5月7日【日】
10:00～15:00
仙台市民活動サポートセンター
仙台市青葉区一番町4-1-3
会費：1000円
仙台ダルクグループ代表
飯室 勉

2023年5月16日【火】
19:00～20:30
仙台ダルク
仙台市青葉区上杉2-1-26
会費：寄付による



献金・献品を賜りました皆様方へ心より感謝申し上げます。
恐れ入りますが敬称を省略いたします。(2022年12月~2023年2月分)
※ニューズレター発送簡略化の為、郵便振替用紙は全員に同封いたします。
尚、匿名希望の方は振込用紙にお書き添えください。



香山雪彦 水田淳子 佐々木由美子 熊谷俊恵 連記成史 沢田秀二
川村仁 新川達郎 井林幹明 花田洋子 野田栄子 くすりのおおくま
岡本病院 安達地区薬物乱用防止指導員協議会 カトリック花巻教会
オタワ愛徳修道女会オタワアソシエ オタワ愛徳修道女会
その他匿名の皆様方

編集後記

仕事の立ち位置が変わり、現場責任者になる予定です。目下、研修に明け暮れています。見るべき視点が変わるので、慣れるのに時間がかかりそうです。最初からうまく立ち回ることができないはずもない。花粉症の発作も相俟って四苦八苦しております。抽象的によく「多角的な視点」などと表現されますが、実際にそれに晒されるとシナプスの新たな回路が繋がるような気がします。不安ではあるのですが、小気味よさと隣り合わせです。

この小気味よさ、面白さと言い換えてよいかもしれませんが、ありがたいと感じます。それを求めてもっとアクティブに生きようと頭では思うのですが、そこはひきこもり風情。そう簡単にはまいりません。

逆手にとって、心がけてきたことがあります。”ひきこもり〇〇をする”シリーズと銘打っています。不釣り合いだと感じた時、この言葉を自分に言い聞かせるのです。例えば”ひきこもり投資をする” ”ひきこもり銀座を歩く” ”ひきこもり高級抹茶をいただく”など。身の程知らずで何が悪いと聞き直りやすくするマジックワードです。所詮ひきこもりなんだから新たな場面で変に虚勢を張っても仕方がない。

今回も”ひきこもり現場責任者をする”というシリーズで自分のあたふたさをルポのように眺めています。

ひきこもりの視点というのは、強いられたものなので、隅から憤りを湛えながら不安の眼差しで見えています。今度は真ん中でデンと座らされて周囲を見渡すわけです。しかし、ひきこもりの視点は失いたくない。王様になっちゃおしまい。音頭をとって号令をかけるのは私には合わないのです。でも、合わないことは新鮮なことでもあるんですよね。合わないことをしましょうか。



春、爛漫

編集者 仙台ダルク

〒980-0011 仙台市青葉区上杉 2-1-26

TEL 022-261-5341 FAX 022-261-5340

URL <http://sendai-darc.org/>

Mail s-darc@jasmine.ocn.ne.jp

発行所 東北障害者団体定期刊行物協会

〒980-0874 仙台市青葉区角五郎 1-12-6

頒価 100円